



国鉄労働組合 北陸地方本部
 (NTT)076-231-1506 (FAX)076-231-1114
 (Mail)nru-hk@m2.spacelan.ne.jp
 発行人 藤野 能章 男
 編集人 山田 輝男

2025 地本団結旗開き開催



国労北陸地方本部は、1月13日、石川県平和と労働会館において、石川県労働者組合総連合・日本共産党石川県委員会・国鉄退職者組合北陸地連の各代表と国労全国貨物協議会の橋本事務長を招いて2025年団結旗開きを開催しました。

主催者を代表して、藤野委員長が「昨年一月一日の能登半島地震、翌一日の羽田空港での日本航空機と自衛隊輸送機の衝突事故、九月には能登半島豪雨被害、その他袴田さんの無罪判決や福井の前川さんの再審開始の決定、ノベル平和賞に日本被団協の受賞、自民党の裏金問題による保守政権の過半数割れ、JRでは北陸新幹線の敦賀延伸とハピラインふくいの新たな開業、JR各社では脱線事故、車両分離、保守用車の衝突、検査タータの改ざんなど重大事故が続発している。正に激動の一年であった。戦後八〇年平和と民主主義を前進させるために奮闘しよう。」とあいさつしました。



来賓の方々からは、能登半島地震の復興につて、阪神や東北地震と違って修復するやり方に限定して行っているので、非常に復興が遅れている。福井二区の衆議院議員選挙では、自民党の現職と元職の二人とも落選した、ネット等により国民の不満が大きくなうねりを起こした。等のあいさつがされました。

福井・石川・富山県支部からは、新年の決意表明がされ、最後に藤野委員長の団結ガバローによって、旗開きがしめられました。



労働講座 「物流における貨物鉄道の役割と課題」



全国貨物協議会の橋本事務長を招いて、学習会を開催しました。1987年1万2000名で出発したJR貨物。現在は5500名余りの社員で、自然災害等の影響を受け赤字に転落。カーボンニュートラル、脱炭素社会に向けた物流の期待をうけているが、トラックドライバーの残業上限規制や新幹線を使つての輸送の開始など、貨物会社を脅かす問題が多くあり、厳しい状況になっていると、講演されました。

「地域公共交通を守る
 全国統一行動」北陸集會
 2月22日 10時30分
 「第141回 拡大地方委員会」
 2月22日 13時
 於：平和と労働会館 三階